

第131回 市町村職員を対象とするセミナー

地域包括ケアシステムの深化を目指して

～支え合い暮らし続けられるまちづくり～



平成30年1月22日(月)

岩手県金ヶ崎町保健福祉センター
介護保険係 係長 及川恵美

人と地域が支えあうまち^{かねがさき}金ヶ崎



金ヶ崎町は、岩手県の南西内陸部に位置し、北は北上市、南は奥州市と接しています。

基幹産業の農業は、米(食味ランキング連続「特Aのひとめぼれ」)、野菜、花きの栽培が盛んで、西部の山ろく地帯では広大な牧草地を活用した酪農や畜産が行われています。

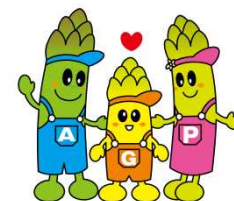


人と地域が支えあうまち^{かね が さき}金ヶ崎



世界に誇れる日本の企業が集結

➤岩手県内最大の岩手中部(金ヶ崎)工業団地。医薬品、自動車、半導体製品の3大産業が集積しています。



アスパラ収穫祭

➤県内一の生産を目指すアスパラガス、アスパラガスの試食、販売、加工品の数々を味わうことができます。アスパラガスを満喫することができるイベントです。



金ヶ崎町の概要

➤人口:15,765人
(男性:7,940人 女性:7,825人)



➤世帯数:5,974世帯

➤65歳以上の高齢人口:4,621人 (高齢化率:29.31%)

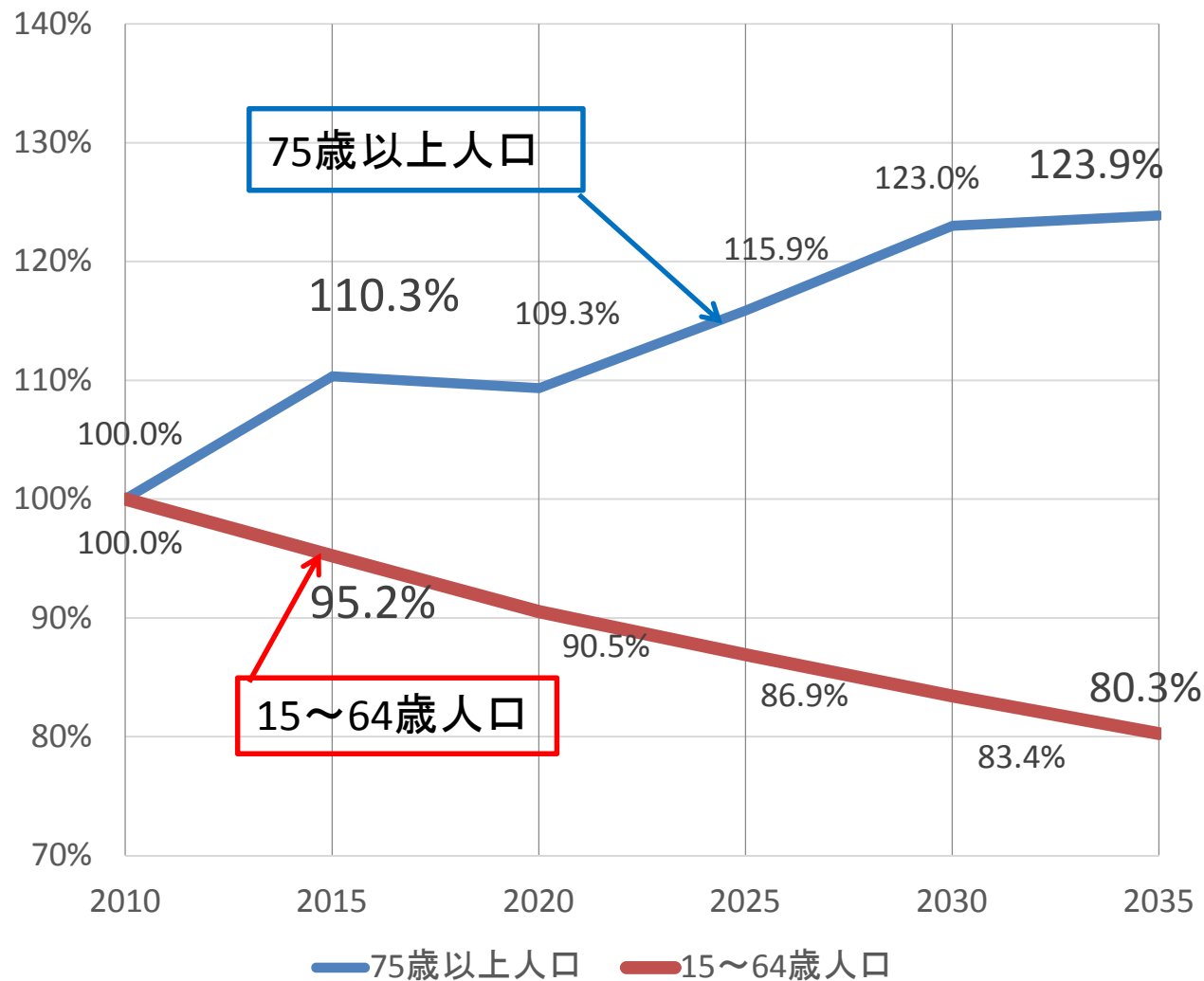
➤要介護認定者数 729人
(第1号被保険者 717人、第2号被保険者12人)

➤地域包括支援センター 直営1箇所

➤介護保険料基準月額:5,400円 年額:64,800円
(基準額は第10段階で設定)

平成29年11月30日現在

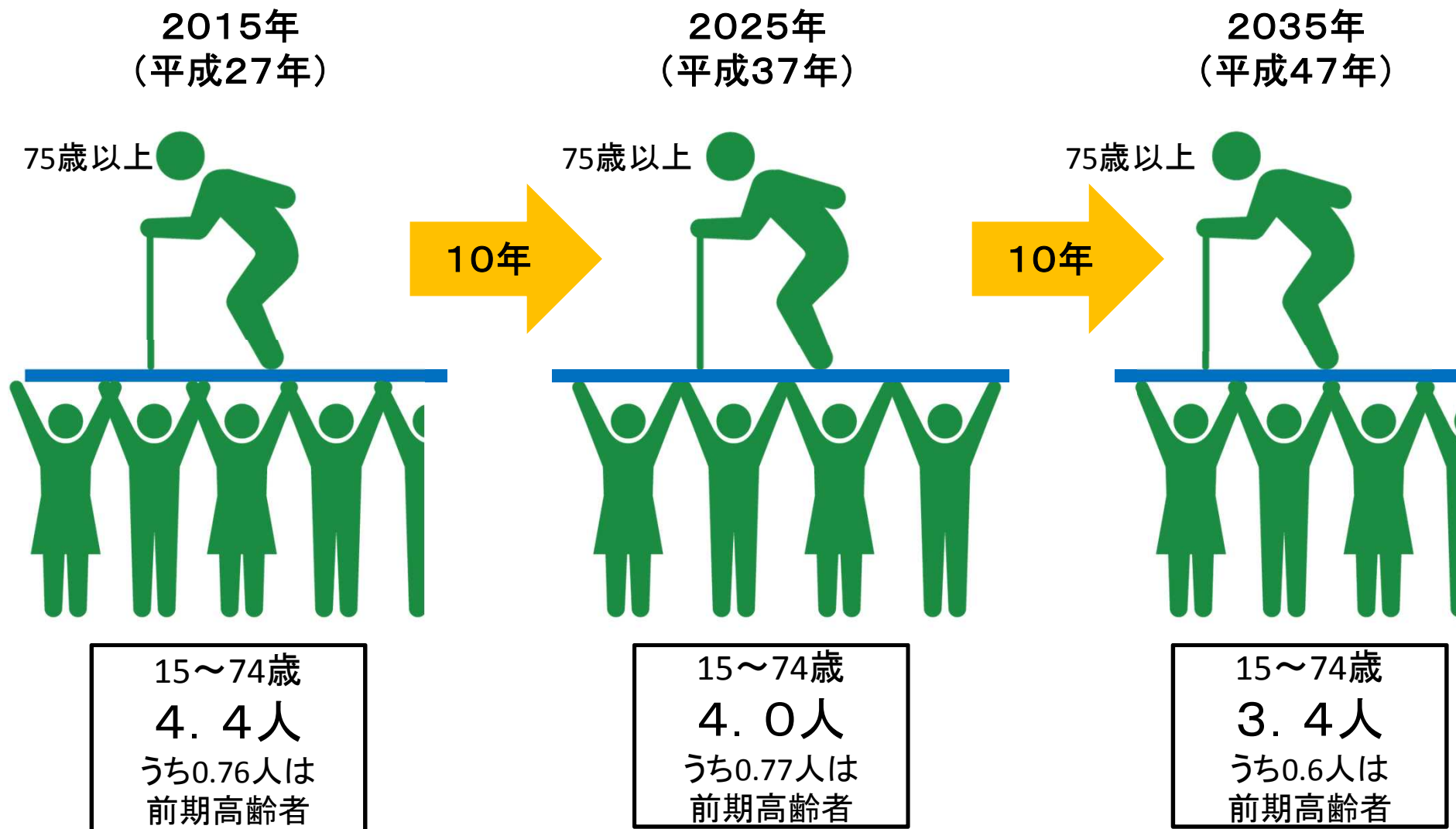
金ヶ崎町人口将来推計



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地区別将来推計人口により作成
※2010年を100とした場合の2035年までの推計値 (平成25年3月推計)

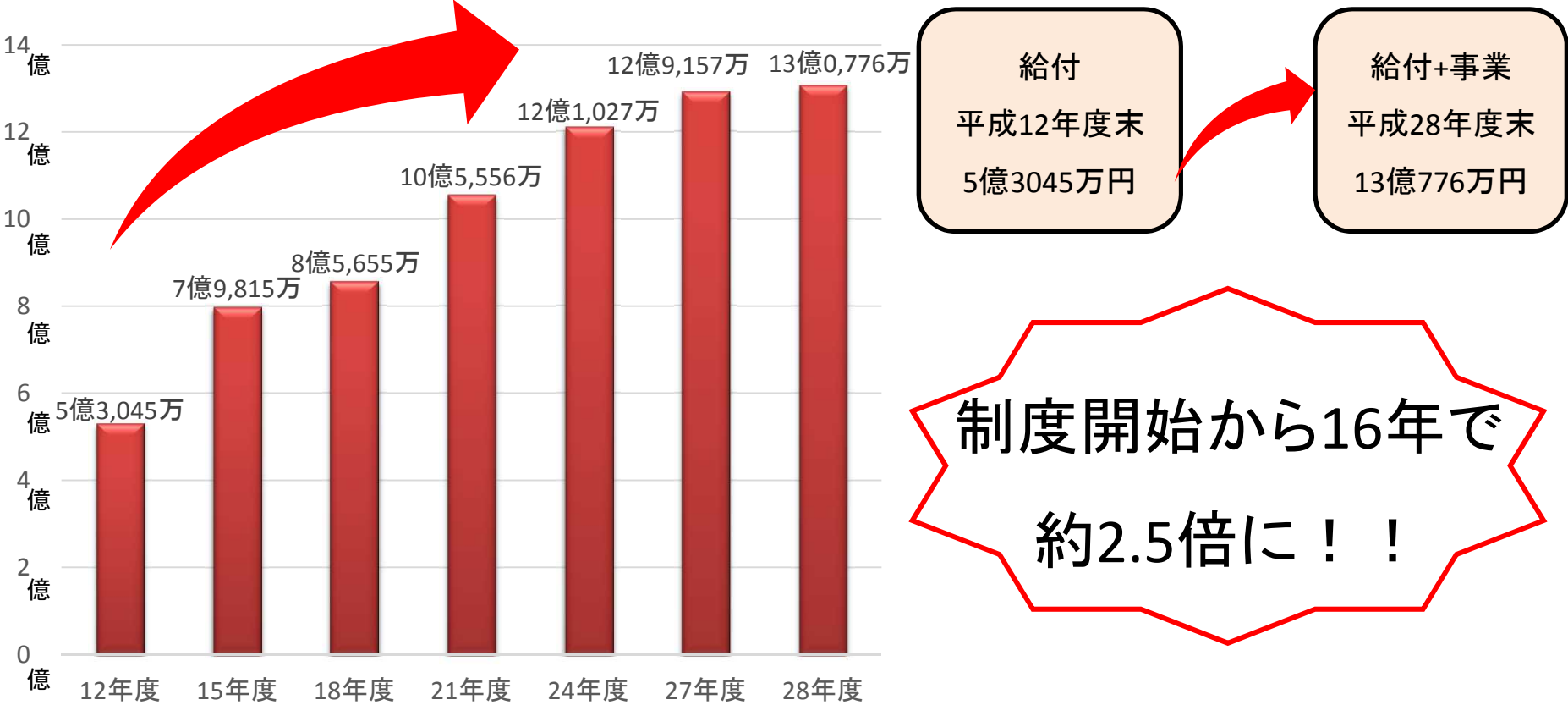
- ▶要介護リスクが高くなる後期高齢者(75歳以上)人口は、2020年以降増加する見込。
- ▶生産年齢(15-64歳)人口は年々減少を続け、後期高齢者人口とのギャップは大幅に拡大。
- ▶それに加え、単身世帯・高齢者のみ世帯が増加すれば、高齢者の生活支援ニーズは増加。

高齢者を支える人が少なくなっていく……

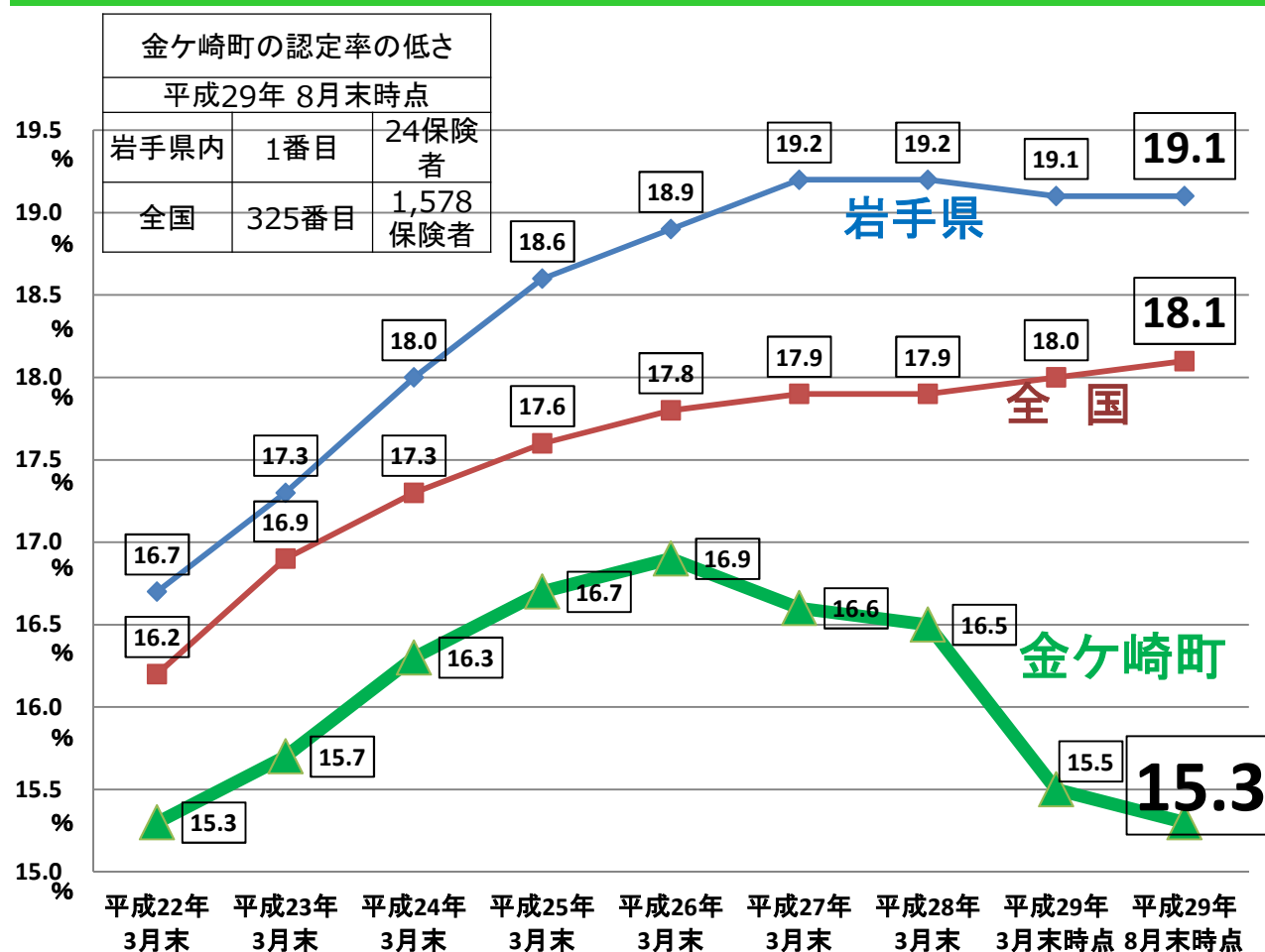


出典) 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地区別
将来推計人口により作成 (平成25年3月推計)

金ヶ崎町の介護保険事業費の推移



金ヶ崎町の要介護(要支援)認定率の推移



要介護認定率

岩手県一低い！

認定率が低い要因として考えられること。

- 一般介護予防事業の成果。
- 地域ケア会議の成果。
- 自立支援に資するケアマネジメント研修会の成果。など。

(出典) 平成21年度から平成27年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告(年報)」、平成28年度：「介護保険事業状況報告(3月月報)」
、平成29年度：直近の「介護保険事業状況報告(月報)」

H28. 2介護予防・日常生活支援総合事業開始



超高齢社会に突入したが、地域で
支え合い安心感のある福祉行政を
確立していきたい。

【開始式で事業推進への決意を語る高橋由一町長】

超高齢化対策は先手必勝



なぜ、「今」個別地域ケア会議を導入するのか。

「個別地域ケア会議」は、利用者の目標達成と支援メニューの具体的な内容を多職種協働で考える「場」。

これからの介護予防は、本人の「できるようになりたい」ということを大切にして、その目標を達成していくことが求められている。

その目標を達成するためには、「自立支援に資する介護予防ケアマネジメント」が必要。

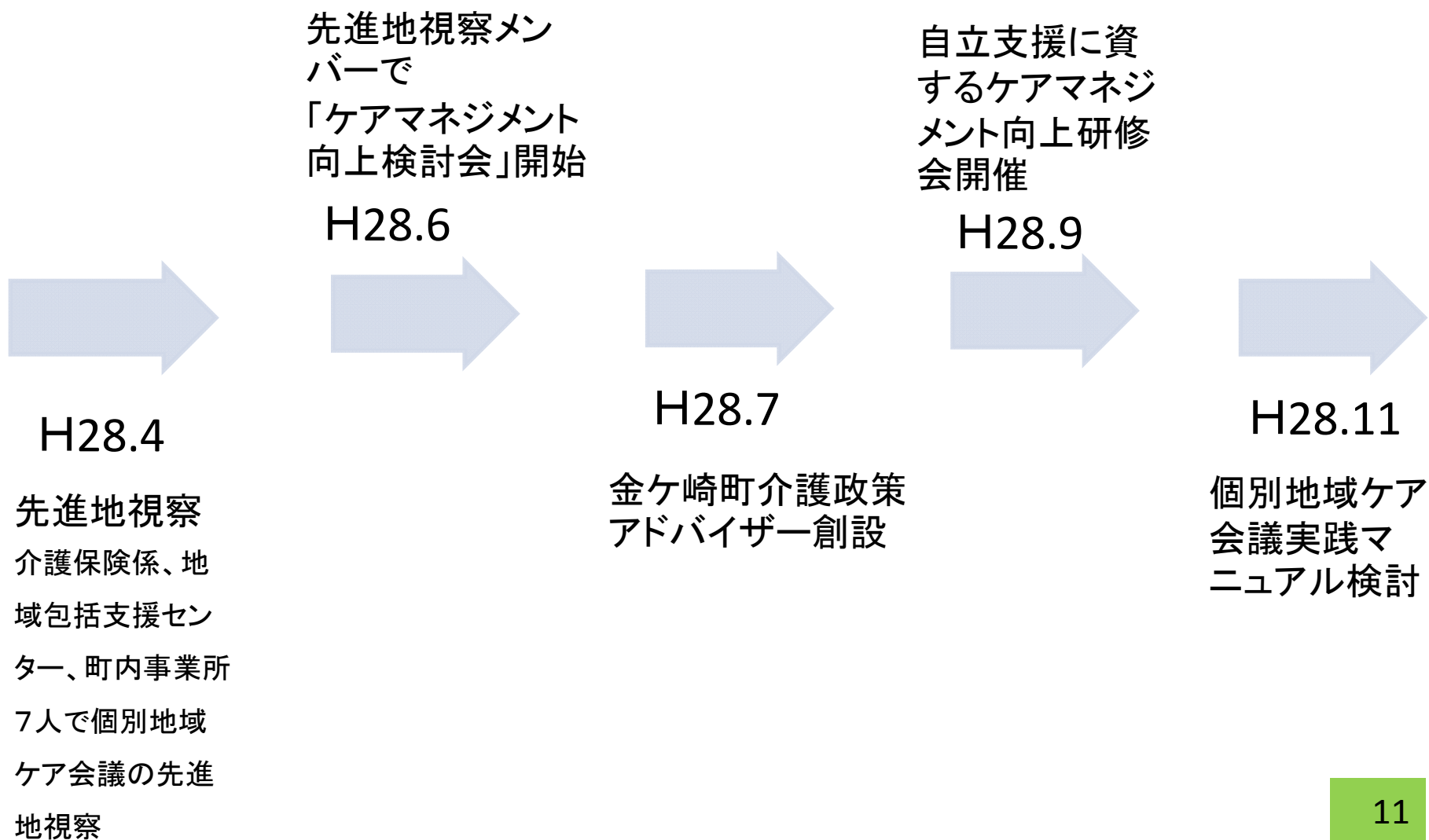
個別地域ケア会議において「できるようになりたい」を検討する過程で、地域に不足するニーズも見えてくる。

不足するニーズから、必要な支援の仕組みづくりへと繋ぐことが可能になる。そこから新しい展開が出来て、より暮らしやすい町になるよね。

さあ、出発進行♪



個別地域ケア会議開催まで(その1)



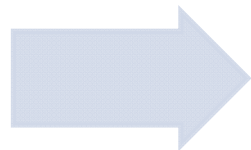
個別地域ケア会議開催まで(その2)

地域包括ケアシステム
推進セミナー(公開模擬
地域ケア会議)開催

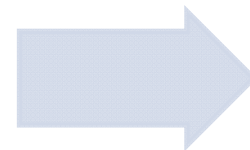
ケアマネ連絡
会にて個別地
域ケア会議開
催説明

介護政策アドバ
イザー講演会
個別地域ケア会議
導入について

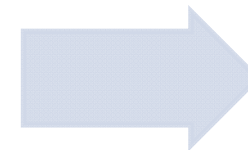
H28.11



H28.12



H29.2



H28.11
新しい地域支
援を考える
フォーラム開
催
住民主体ミニ
デイサービス主
催者事例発表・
介護政策アド
バイザー講演

H29.1
個別地域ケア
会議試行実施
1月～3月

H29.3
金ヶ崎町
地域ケア会
議設置要綱
整備

ケアマネジメント向上検討会

町(介護保険係・包括)だけで考えるのではなく、町全体を巻き込みながら進めていく。



回数	開催日	内容
第1回	平成28年6月16日	会議の目的と期待する効果について検討事項案の協議
第2回	平成28年7月13日	効果的な介護予防ケアマネジメントの在り方とは 事例検討3事例
第3回	平成28年8月4日	個別地域ケア会議実践マニュアル検討事例検討6事例
第4回	平成28年8月22日	金ヶ崎町介護政策アドバイザーによる居宅介護支援事業所研修会
第5回	平成28年9月16日	個別地域ケア会議実践マニュアル案見直し／公開模擬ケア会議の事例選定(3事例)
第6回	平成28年10月21日	個別地域ケア会議進行マニュアルについて／公開模擬ケア会議の事例決定(2事例)
第7回	平成28年11月4日	11月13日公開模擬ケア会議リハーサル(専門職アドバイザー同席)
第8回	平成28年11月21日	11月13日公開模擬ケア会議の反省及び評価
第9回	平成28年12月16日	平成29年度からの個別地域ケア会議実施について

先進地視察メンバー

- ・ 介護保険係 1人
- ・ 地域包括支援センター 2人
- ・ 居宅介護支援事業所主任ケアマネ 2人
- ・ 居宅介護支援事業所ケアマネ 1人
- ・ 事業所(特養・GH)施設長 1人

計7人

強い
味方

個別地域ケア会議開催の目的

必要施策

- ①高齢者のQOL向上
- ②介護保険制度の理念の追求
- ③介護保険事業計画(課題解決)
- ④介護予防事業の強化
- ⑤認知症対策
- ⑥医療・介護連携

機能強化

- ①保険者(町)
- ②地域包括支援センター
- ③ケアマネジャー
- ④サービス事業所
- ⑤その他関係団体等

人材育成

- ①全関係者の意識改革
- ②政策立案能力の向上
- ③アセスメント能力の向上
- ④コミュニケーション能力の向上
- ⑤専門職の専門性の向上

高齢者のQOL向上



元気高齢者の増加

要介護認定者数の減

介護保険料の上昇抑制



H29. 4個別地域ケア会議開始

会議の準備期間は1年間！いよいよ、スタート。



- 毎月開催(原則第3火曜日9:30~11:30)
- 専門職アドバイザー:理学療法士(外部委託)、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士
- 対象事例:総合事業対象者・要支援1・2
- 1事例の所要時間:約30分
- 検討事例数:3事例

個別地域ケア会議の事例

事業所の目標設定 1カ月⇒歩行の安定を図り転倒を防止する
3カ月⇒見守り程度で入浴が出来る

■事例(平成29年7月第4回)

- 昭和23年生まれ 69歳 男性 要支援2
- 3世代7人家族(主介護者は妻)
- 消防団活動、地域のまとめ役、スポーツ万能⇒42歳の時脳梗塞で左麻痺、心臓機能障害によりペースメーカー埋設(身障1級)
- 退院後スポーツセンターで自主リハビリ継続
- 平成26年3月介護認定、通所リハビリ利用開始
- 平成28年11月自宅で転倒後3カ月サービス利用休止しADL低下
- 平成29年1月より通所リハビリ再開(週1回)
- 現在1本杖使用で日常生活は自立だが、歩行ふらつく

■課題と目標

課題	目標
○左麻痺で杖歩行、散歩もするがバランスが悪いため転倒の危険性あり。	○歩行動作の安定を向上させ自宅内は杖に頼らなくても行動できる。
○入浴時の浴槽の出入りが不安定で妻が体を支えて介助している。	○見守り程度で入浴が自立できる。
○転倒後、家族が神経質になり本人の出来ることまで手をかけてしまう。	○家での役割を持つ。

ケアマネさんが作成して下さった介護予防サービス・支援計画表に基づき「歩行の安定を図り転倒を予防する」という目標の下、リハビリを実施しました。



T字杖を用い、独歩可能ですが、左片麻痺の影響により良い方の右側に体重を依存した歩き方になります。転倒まではしませんが、バランスを崩しやすく努力性の歩行で長距離の歩行、特に屋外歩行等は困難になります。



リハビリを実施し続けた結果、麻痺側(左側)への体重もかけた歩き方となり、楽に歩けるようになりました。写真ではT字杖をつけていますが、なくとも歩けるようになり(あった方が安全と思われず)屋外歩行も可能となりました。

専門職アドバイザー及び包括の助言

理学療法士

- 杖歩行に臍側の体重を依存しすぎてバランスを崩しやすくなっており、リハビリでは麻痺側への体重移動も出来るようにすることや、床からの立ち上がり訓練、浴槽を安全にまたぐ訓練等現在の事業所の取組が効果的。
- 自宅でも役割をお持ちになってほしい。ご家族へも自立するためのリハビリの理念をその都度説明を。

薬剤師

- 薬の作用理解と副作用で脳出血傾向や、相互作用としての食べ合わせ、飲み合わせの注意を。
- ケアマネとしてある程度は薬の副作用等について、理解してほしい。

管理栄養士

- むせることに対して、姿勢バランスから誤嚥予防、食事環境づくり。

歯科衛生士

- 通院履歴あるが、転倒後中断。片麻痺あると口腔内にも影響があり、嚥下障害の原因となる。
- 歯の状態を確認し嚙む力を整えることでも、むせ予防や飲み込み改善期待できる。
- 歯科受診時、内服情報持参で。

地域包括

- リハビリを再開するにあたり、要支援でも個別・生活行為により着目できる通所事業所に変更したことで効果が出ている。
- 慣れた事業所ではなく目標に向けた対応の出来る事業所を選択したことが効果的。
- 自宅での役割を持つことは、家族の一員として必要なこと。地域活動への準備にもつながる。

専門職アドバイザーが心がけていることは？

1事例3分のアドバイスに思いを込める専門職アドバイザー4人。

理学療法士



- 参加者に分かりやすく話をする。
- 自立支援の視点に立って自分なりに事例を通じてイメージして発言する。

薬剤師



- 薬の作用をただ覚えるだけでなく、薬の副作用も知ってもらう。
- 知識の一助となればと思う。

管理栄養士



- 全ての参加者に分かりやすい言葉で伝える。
- 実践しやすいよう具体例を挙げる。

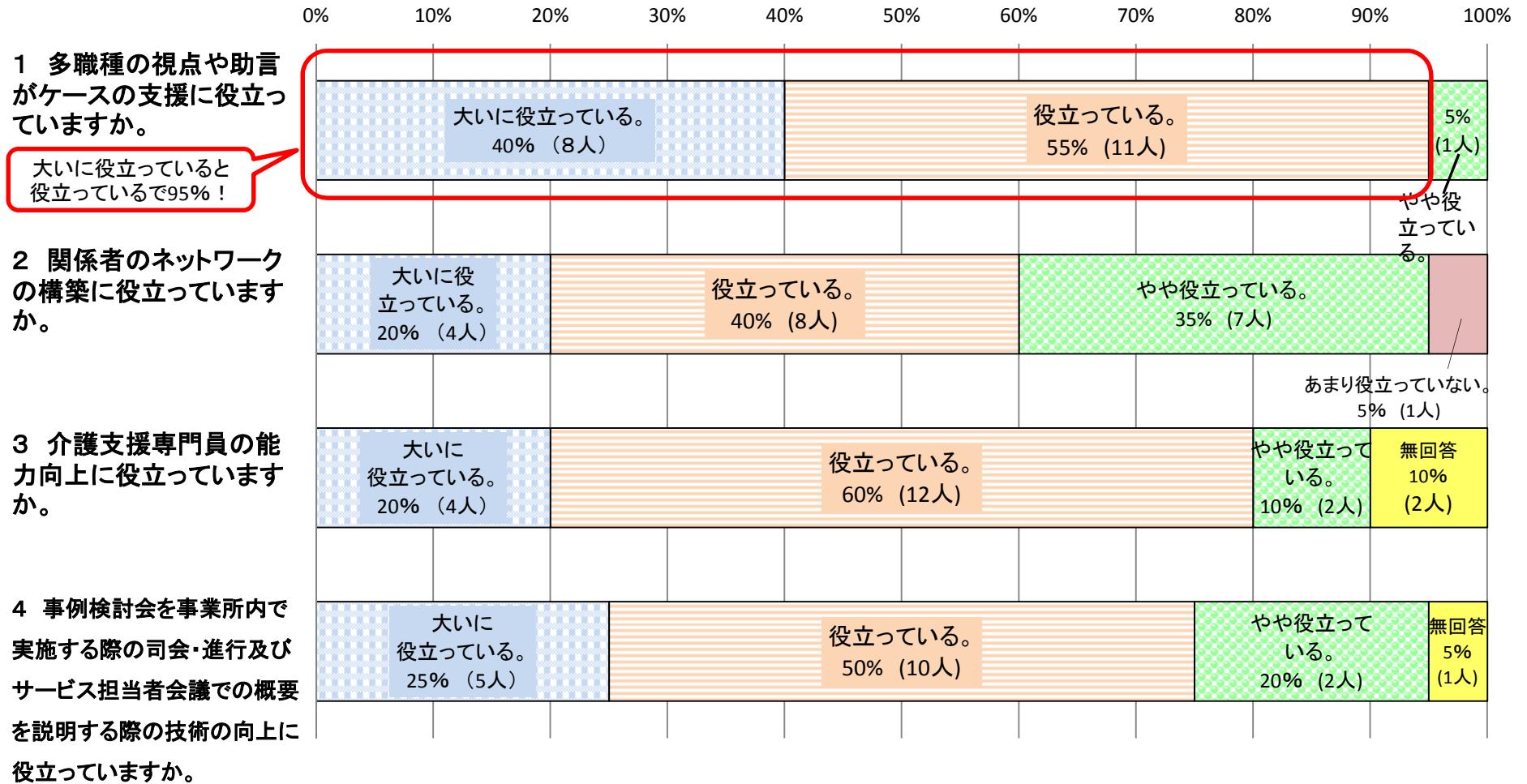
歯科衛生士



- 毎回似たような助言になりがちなので、みなさんの興味を引く話題を提供する。
- 専門用語を使わないこと。

個別地域ケア会議についてケアマネに聞く。

特に他職種の視点や助言がケースの支援に役立っている。 平成29年12月19日参加者20人



自立支援に資するケアマネジメント研修会

お世話型から自立支援型への転換を図る。

ケアマネジメントを通じて利用者の介護予防意識を高める。



平成29年6月から9月まで全5回開催

○ケアマネ対象・全3回コース受講者65人

○サービス提供事業所対象・全2回コース

受講者59人 計 124人

受講者の感想

★保険者、地域包括、ケアマネ、サービス提供事業所が四位一体となって取り組まなければ変わっていきません。強い気持ちで介護保険の理念に沿った支援をしていきましょう。

★個別サービス計画とケアプランの違いに少し驚いた。利用者に対する思いは同じなので少しずつでも自立支援に近づけていきたい。

個別地域ケア会議と地域包括ケア会議

	開催頻度	構成員 ほぼ、同一メンバー	個別課題解決	ネットワーク構築	地域課題発見	地域づくり・資源開発	政策形成
個別地域ケア会議 (地域ケア個別会議)	毎月	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員 ・介護事業所職員 ・介護保険係・包括 ・約20人参加 	○	○	○		
地域包括ケア会議 (地域ケア推進会議) 協議体としての役割	隔月	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員 ・介護事業所職員 ・医療関係者 ・民生委員 ・シルバー人材センター職員 ・介護相談員 ・警察 委員 計16人 ・生活支援コーディネーター ・介護保険係、包括 		○	○	○	○

生活支援コーディネーターとともに、地域に身近な人達に関わる「チーム(場も含め)」が協議体。会議体を作ることが目的じゃないから、

金ヶ崎町では、既存の地域包括ケア会議を活用。

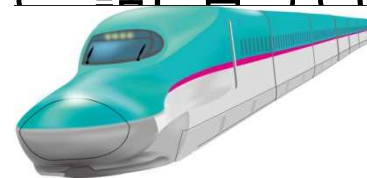


そこから始まる日々の活動が、
地域づくりのエンジン！。

さあ、生活支援コーディネーターを支えながら、わきあいあいと、

みんな、地域で支え合う仕組みについて話し合っていくわよ。

出発進行♪



地域包括ケア会議と生活支援コーディネーター

✔ ネットワーク構築 ✔ 地域課題発見 ✔ 地域づくり・資源開発 ✔ 政策形成

平成28年度地域包括ケア会議・毎月開催
(生活支援コーディネーター参加)

☆主な内容

- 生活支援コーディネーターの目的と役割について
- 先進地視察報告
- 先進地視察前のグループワーク
- 総合事業サービスの枠組みについて
- 総合事業サービス事業所アンケート結果について
- 認知症初期集中支援チームについて
- 総合事業における多様なサービスの新設について
- 個別地域ケア会議導入について

平成29年度地域包括ケア会議・隔月開催
(生活支援コーディネーター参加)

☆主な内容

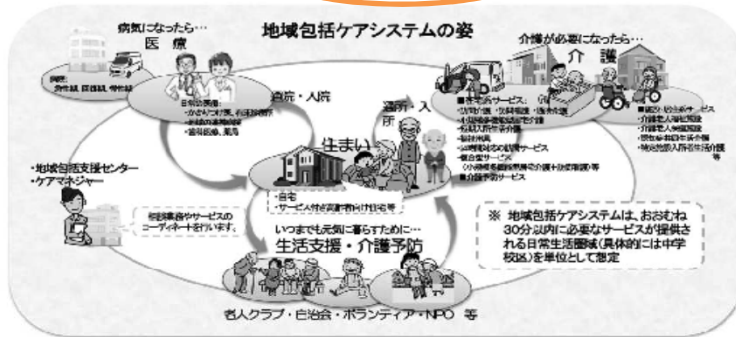
- 地域ケア会議について
- 総合事業の取り組みについて
- 自立支援に資するケアマネジメント研修について
- 生活支援サポーター養成研修について
- 生活支援コーディネーターの活動について
- 先進地視察報告及び「居場所づくり」グループワーク
- 通所型サービスCについて
- ニーズと担い手の掘り起こしキットの体験
- いきいき百歳体操について
- 移動・外出支援について



生活支援コーディネーターと一緒に考える仲間がいる。

支え合う暮らしの推進・広報かねがさき

H29. 7月号 町民にも
制度の理解を求める。



国が進める地域包括ケアシステムの構築

上の図が示す地域包括ケアシステムの姿を国では次のように構築していく必要があると考えられています。
 ▶ 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重要な介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築が必要です。
 ▶ 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認

知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
 ▶ 人口が幅広いで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差があります。
 ▶ 地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく必要があります。

特集 地域包括ケアシステム

～高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らすために～

写真：生活支援サポーター養成研修(高齢者の食支援・調理実習)の様子

高齢者をみんなで支える 地域包括ケアシステム

世界有数の長寿国となった日本。今、国を挙げて取り組んでいるのが、周囲のサポートを受けながら、高齢者が住み慣れた場所で暮らし続けることができる地域包括ケアシステムの仕組みづくりです。

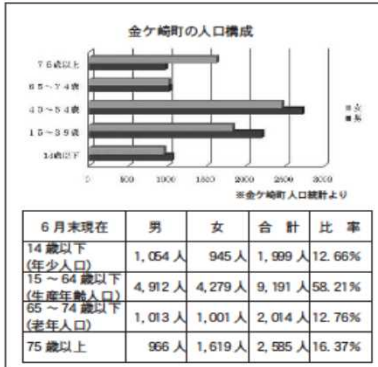
地域包括ケアシステムとは、環境の変化がストレスになりやすい高齢者の多くは、可能な限り住み慣れた地域や自宅です。また、地域内で介護が必要な高齢者を効率良くサポートするためには、家族や地域の医療機関、介護の人材が連携し合う、状況に応じて助け合いが必要があります。そこで、地域における「医療」「介護」「予防」「住まい」「生活支援」の5つのサービスを一体的に提供できる体制を構築しようというのが、地域包括ケアシステムです。

一律ではなく、各地域で高齢化がピークに達するタイミングを想定し、その地域が目指すケアシステムを計画していく必要があります。住み慣れた地域で暮らす

終戦間もない昭和25年、日本人の平均寿命は男女とも約50歳でした。その後、経済の発展によって暮らし向きが良くなり、医療の技術や制度も進歩したことで、平均寿命は大きく伸びました。高齢化の進展は、ただ単に長生きするだけでなく、老後を豊かに過ごすことが大切になってきました。多くの人がとって、住み慣れた地域で、親しい人と元気で充実した生活を送り続けることは、共通の願いになっていきます。

これからの金ケ崎町はどうなるのか？

高齢化率が29割を超え、超高齢社会を迎えた金ケ崎町。高齢者が年々増える一方、少子化によって社会的な担い手となる若者は減っていき、介護現場でも担い手不足は深刻で、もはや介護保険サービスだけでは高齢者の生活全てを支えることができなくなっています。特に、ごみ出しのサポートや見守りなど、日常的に起こる困り事への対応は、公的なサービスだけでは十分な状況です。その解決策として進めているのが、高齢者の暮らしを支える地域住民や関係機関などと連携して支える地域包括ケアシステムの仕組みづくりです。この仕組みが出来る上では、高齢者は医療や介護、生活支援などのサービスを受け、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができます。



支え合う暮らしの推進 社会福祉協議会の 買い物支援バス

買い物支援バス 運行のお知らせ

金ヶ崎町社会福祉協議会では、公共交通機関の利用ができず、買い物に出かけるのが難しい在宅高齢者等の方々に支援するために、買い物支援バスの運行を行います。

1. 参加定員 各回20名 (先着順)
※交通手段がなく外出困難な在宅高齢者等に限定させていただきます。
2. 乗車費 無料
3. 購買場所 イオンスーパーセンター、ビッグハウス 他
4. 実施地区・日程

街・三ヶ尻・北部地区 12月18日(月)	9:30頃～ 福祉バスで送迎 (ご自宅周辺から乗車) 10:00頃～ お買い物・自由時間 (1か所約40分程度) 11:30頃～ 福祉バスで送迎 (ご自宅周辺で下車)
西部・永岡・南方地区 12月21日(木)	※時間等詳細については、後日ご連絡致します。

※なお、ご都合によりどちらの地区に参加しても構いません。

5. お申込み・お問合せ先
社会福祉法人金ヶ崎町社会福祉協議会
〒029-4503 金ヶ崎町西根南羽沢43
TEL: 0197-44-6060 (又は 44-3121)
FAX: 0197-44-6106
※予定日の一週間前までに、お電話にてお申込みください。
担当: 生活支援コーディネーター

★平成28年6月から生活支援コーディネーターの配置がきっかけとなり、社会福祉協議会の事業として「買い物支援バス」が運行開始しています。利用者は女性が9割。80代が6割、9割がリピーター。

バスの中でお友達が来たのよ。

大好評運行中。



生活支援コーディネーターの関わり

- チラシの作成
- 民生委員への周知
- 民生委員へ利用者の体調等の情報を伝える。
- ニーズに応じて新たな生活支援の展開を考える。など。

平成30年2月から買い物支援バスに新たな展開！
買い物+体操バス運行予定。



支え合う暮らしの推進

シル
バー人
材セン
ターの

ワンコインサービス

H29.4開始

高齢者本人からの依頼による支援

H30.4開始予定

離れて暮らす子から親(高齢者)を支援して欲しいとの依頼による支援

暮らしのちょっとした困りごと
シルバー人材センターがお手伝いします!

生活支援 ワンコイン サービス
500円

2017年4月～

30分以内の簡単な作業を
500円でお手伝いします。
金ケ崎町内にお住いの方なら
どなたでもご利用できます。

みなさまのご利用をお待ちしております。

作業内容など詳しくは案内書をご覧ください。

●30分以内の作業(1人) 1回 500円
●最大1時間までの作業(1人) 1回 1,000円

あなたの

親孝行

をお手伝いします!!

- ・離れて暮らしているあなたのご両親の日常生活、心配。
- ・ご両親の手助けしてあげたい。でも、仕事が忙しくてなかなかできない。

→そんなあなたを私達がお手伝いします!!

◎1回2時間程度で、2,500円

※ご両親(何う先)の承諾を得てからのご依頼をお願い致します。

日常生活支援	
① ゴミ出し	⑦ 掃除・塵掃き
② 食事の片付・茶碗洗い	⑧ 石油ストーブの給油
③ 簡単な縫製	⑨ 季節家電の入れ替え
④ 洗濯物・布団 干し、取り込み	⑩ 庭木・花の水やり
⑤ 季節衣類の入れ替え	⑪ 話し相手
⑥ 窓ふき	

お仕事にお伺いした際に、日常の様子を写真に撮り、請求書発行時に同封し、現況報告致します!

当センターでは、他にも、庭木の剪定や草刈、簡単な大作業、襪・障子の貼り替えも行っております。
お見積りを作成致しますので、お気軽にお問合せ下さい。

一般社団法人 金ケ崎町シルバー人材センター
岩手県胆沢郡金ケ崎町西根前野253-1 金ケ崎町民楽園パーク内
TEL 0197-44-3219 FAX 0197-34-2029

お申し込み・お問い合わせ先
一般社団法人 金ケ崎町シルバー人材センター
金ケ崎町西根前野253番地1 金ケ崎町民楽園パーク「食・身体験センター」内
TEL・ファックス (0197) 44-3219

ワンコインサービスの担い手さんは町の生活支援サポーター養成研修修了者です!
ワンコイン生活支援サービスの担い手さん(男性74才)に聞く。お手伝いしてはどうですか?
➢30分で500円だと、ゴミ出しは10分で終わってしまう。それでは申し訳ないので他に何かないですか。とお客様の要望を聞いてリサイクルの分別、窓ふき、掃除などをしている。但し世話を押し付けないようにしている。

チームオールかねがさき

主催者が町内施設を回る。

医療・介護・福祉関係者の顔の見える関係づくり。

話しが盛り上がりすぎてジャズの音楽♪が聞こえないわね。



第2回
ケア・カフェ金ヶ崎



平成29年12月12日(火) 18:15~19:30

テーマ「人生終末期のケア」



☆持ち物

- ・マグカップ
- ・ネームプレート

☆お問い合わせ・お申込み先
金ヶ崎町保健福祉センター

◇介護保険係
及川恵美&四日市春美

☎ 0197-44-4560
FAX 0197-44-4337
別紙申込書により FAX で
お申し込み願います。

◇会場 金ヶ崎診療所 談話交流室
金ヶ崎町西根鏈水九十八番地
◇定員約六〇名
◇参加費 無料



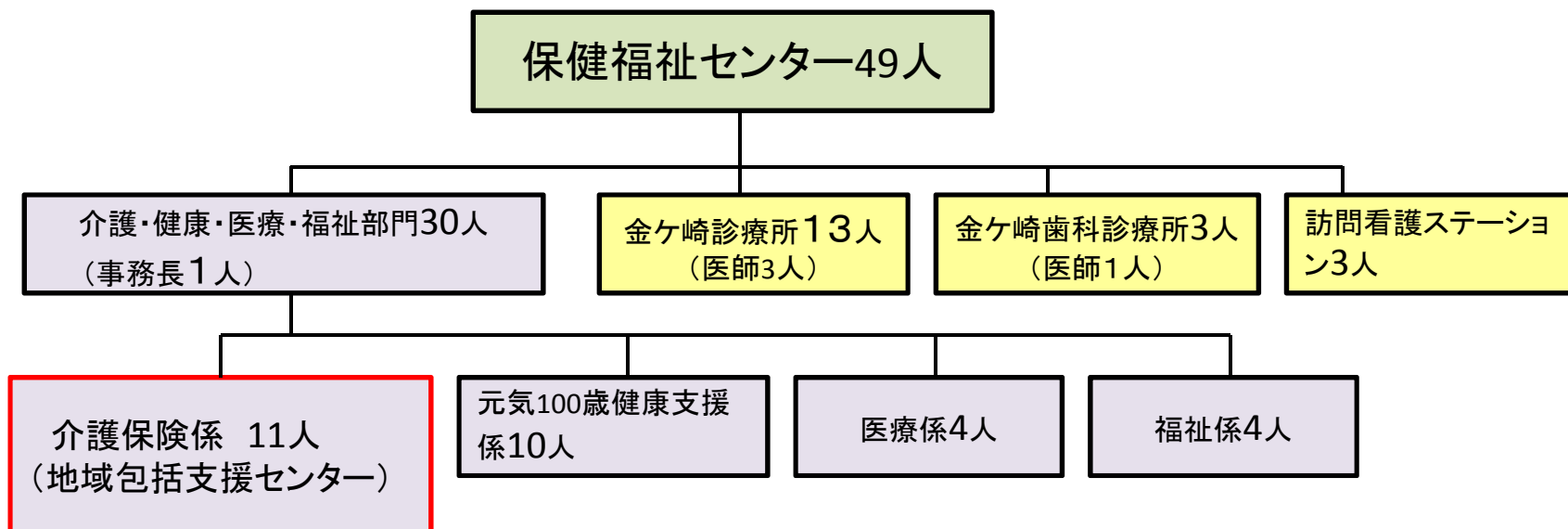
本日のマスター
金ヶ崎診療所
阿部俊和所長

医療・介護・福祉関係職員計54人参加(町長・医師5人含む)

★感想

- 社会資源の活用・開発について話し合ってみたい。
- 地域の方と顔の見える関係が出来るのは有意義である。継続してほしい。
- 会議や研修とは違い、気軽な気持ちで参加出来る集まりも良いと思った。
- 仕事に繋がり、横の連携にも繋がってイける。

保健福祉センター組織図



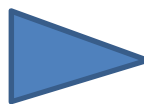
- 毎朝:診療所での全体朝礼(係長以上)⇒
⇒介護・健康・医療・福祉部門(全員)で朝礼と終礼
- 毎週金曜日:管理会議(係長以上)
- 毎月末:保健センター運営会議(全員)

大きい組織だが、頻繁に顔を合わせて情報を共有し、横の連携を図っている。

介護保険係(地域包括支援センター)人員体制

平成27年4月1日 (単位:人)

職	介護	包括
事務長(兼包括所長)	1	
係長(兼包括係長)	1	
主任介護支援専門員		1
主任看護師	0.7	0.3
保健師		1
主査	1	
主事	1	
社会福祉士		
社会福祉士(非常勤)		1
要介護認定調査員(非常勤)	1	
認知症地域支援推進員(非常勤)		
臨時職員		
小計	5.7	3.3
介護+包括計	9	



+3

平成30年1月1日 (単位:人)

職	介護	包括
事務長(兼包括所長)	1	
係長(兼包括係長)	1	
主任介護支援専門員		1
主任看護師	1	
保健師		1
主査		
主事	2	
社会福祉士	1	1
社会福祉士(非常勤)		
要介護認定調査員(非常勤)	1	
認知症地域支援推進員(非常勤)		1
臨時職員	1	
小計	8	4
介護+包括計	12	

- 平成27年6月認知症地域支援推進員1人増員。
- 平成28年6月臨時職員1人増員。
- 平成29年4月社会福祉士(非常勤)1人から社会福祉士(正職員)2人体制に。
- 平成29年10月事務職1人増員。



人員体制の強化
は少しずつ進ん
でいる。

介護保険係(地域包括支援センター)の仲間達

明るい顔には明るい話題。 みんなで力を合わせて。



いつも
笑顔で